

平成30年度 全国学力・学習状況調査  
調 査 結 果

- |   |               |         |
|---|---------------|---------|
| 1 | 調査の概要         | 1 ページ   |
| 2 | 教科に関する調査結果    | 2～3 ページ |
| 3 | 質問紙調査に関する調査結果 | 4～5 ページ |
| 4 | 羽幌町の今後の取組     | 6 ページ   |

平成30年8月  
羽幌町教育委員会

## 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査の対象

- ① 小学校調査      小学校6学年
- ② 中学校調査      中学校3学年

#### (3) 調査の内容

##### ① 児童生徒に対する調査

- ・ 教科に対する調査（国語、算数・数学、理科）

主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A、理科）

主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B、理科）

##### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
- ・ 学校に対する調査

#### (4) 調査期日

平成30年4月17日（火）

#### (5) 調査を実施した学校

羽幌小学校

羽幌中学校

天売中学校

## 2 教科に関する調査結果

### (1) 教科に関する小学校調査の結果（国語、算数、理科）

#### ① 国語A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題（12問）

■国語A全体の平均正答率は、全道と同程度であるが全国を下回っている。

※ 前年度の国語A全体は、全道・全国を下回っている。

#### ② 国語B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題（8問）

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語B全体も全道・全国を下回っている。

#### ③ 算数A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題（14問）

■算数A全体の平均正答率は、全道・全国を下回っている。

※ 前年度の算数A全体は、全国を下回っているが、全道を上回っている。

#### ④ 算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題（10問）

■算数B全体の平均正答率は全国・全道を下回っているが、その差は縮まっている。

※ 前年度の算数B全体は、全道・全国を下回っている。

#### ⑤ 理科

主として「知識」及び「活用」に関する問題（16問）

■理科全体の平均正答率は全国・全道を下回っているが、その差は縮まっている。

※ 前回（平成27年度）の全体も、全道・全国を下回っている。

### (2) 教科に関する中学校調査の結果（国語、数学、理科）

#### ① 国語A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題（32問）

■国語A全体の平均正答率は全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語A全体も全道・全国を下回っている。

② 国語B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題（9問）

■国語B全体の平均正答率は全道・全国を下回っている。

※ 前年度の国語B全体は、全道・全国を上回っている。

③ 数学A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした問題（36問）

■数学A全体の平均正答率は全国・全道を下回っている。

※ 前年度の数学Aは、全道・全国を上回っている。

④ 数学B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容を中心とした問題（14問）

■数学B全体の平均正答率は全道・全国を下回っている。

※ 前年度の数学B全体は全国を下回っているが、全道を上回っている。

⑤ 理科

主として「知識」及び「活用」に関する問題（27問）

■理科全体の平均正答率は全国・全道を上回っている。

※ 前回（平成27年度）の全体は、全道・全国を下回っている。

### 3 質問紙調査の実施

#### (1) 児童・生徒に関する質問紙調査

学習に対する関心・意欲・態度（国語、算数・数学、理科、総合的な学習の時間への関心等）、自尊感情・規範意識、学習の基礎となる活動・習慣（言語活動・読解力、生活習慣、学習習慣、学習状況）に関する事項を主に、小学校62項目・中学校59項目について、児童・生徒に質問紙調査を実施

<全道・全国と比較した主な傾向：小学校>

- 平日、週末共に一日の生活の中で、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」が多い傾向にある。また、「学校の授業時間以外に、一日あたりに勉強する時間」、「家で、自分で計画を立てて勉強している」割合が少ない傾向となっている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」割合は多い傾向にあるが、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」割合は少ない傾向にある。
- 「理科の勉強が好き」、「理科の勉強は大切」の割合が多い傾向にあるが、「算数の勉強が好き」、「算数の勉強は大切」の割合が少ない傾向にある。

<全道・全国と比較した主な傾向：中学校>

- 平日、週末共に一日の生活の中で、「学校の部活動に参加している」、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」が多い傾向にあり、「学校の授業時間以外に、一日あたりに勉強する時間」、「学校の授業時間以外に、読書をする時間」の割合が少ない傾向となっている。
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」割合は多い傾向にあるが、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」割合は少ない傾向にある。
- 「数学の勉強は好き」の割合は多い傾向にあるが、「数学の勉強は大切」の割合は少ない傾向にある。

#### (2) 学校に関する質問紙調査

教科指導（個に応じた指導、国語科の指導法、算数科・数学科の指導法）、学力向上（児童・生徒の状況、学力向上に向けた取組・指導法、家庭学習）、学校経営（地域の人材・施設の活用、教員研修・教職員の取組）に関する事項を主に、小学校では84の項目、中学校では81の項目について、学校に質問紙調査を実施

<全道・全国と比較した主な傾向：小学校>

- 指導計画作成にあたり、「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している」、「教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」割合が多い傾向にある。

- 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修の実施」「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる」「個々の教員が、自ら専門性を高めていこうという教科・領域等を決めており、校外の教科教育に関する研究会等に積極的・継続的に参加している」割合が多い傾向にある。また、「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」割合が多い傾向である。

＜全道・全国と比較した主な傾向：中学校＞

- 指導計画作成にあたり、「各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している」、「教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」割合が多い傾向にある。
- 教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、「各教科等の教育目標や内容の相互関連がわかるように作成している」割合が多い傾向にある。
- 「模擬授業や事例研究など、実践的な研修の実施」「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できる」「教員は校外の教科教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している」割合は多いが、「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修の実施」の割合は少ない傾向にある。

#### 4 羽幌町の今後の取組

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、小学校では国語Aは全道並みの平均正答率であるが、国語B、算数A・B、理科については全道・全国の平均正答率を下回っている。なお、算数B及び理科に関しては平均正答率の差は縮まっている。中学校では国語A・B及び数学A・Bの全道・全国の平均正答率は下回っているが、理科では上回っている。

平均正答率を上げるためには、朝学習、放課後学習、朝読書、全校読書の実施や課題（プリント等）の配布などにより、基礎学力の定着・向上を図る必要がある。

また、児童・生徒に関する質問紙より、小学校では「学校の授業時間以外に、一日当たりに勉強する時間」や「家で、自分で計画を立てて勉強している」割合が少なく、中学校では「学校の授業時間以外に、一日当たりに勉強する時間」及び「学校の授業時間以外に、読書をする時間」が少ない傾向である。「家庭学習のすすめ・手引き」の配布や生活リズムチェックシート、デイリーライフなどの活用を保護者へ働きかけ、生活習慣の改善などにより時間を確保した上で、計画的・効率的に学力向上を図る必要がある。